

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100251		
法人名	株式会社ふれあい介護センター		
事業所名	グループホームふれあい楚辺		
所在地	沖縄県那覇市楚辺2-20-2		
自己評価作成日	平成30年10月5日	評価結果市町村受理日	平成31年 4月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pccpub/top/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェンツ
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階
訪問調査日	平成 30年 11月 19日(水)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的でぬくもりある環境を作ります」という事業所理念を掲げ、民家を改築し家庭的な雰囲気を残し、中庭から日差しを取り入れることで、その日の天気や四季を感じて頂けるような環境作り心がけています。それぞれがこれまで営んできた生活を大切に、職員のペースを押し付けず、ご本人の意向を大切に「職員自ら受けたいと思うケア」を常に念頭におきながら、個々の要望に添った支援が出来るよう、日々のケアに取り組んでいます。又、職員は認知症への理解と知識が大切であると考え、法人研修、外部研修、沖縄県認知症グループホーム協会主催の研修への参加、そして那覇地区で認知症の勉強会を立ち上げ、他職種との連携にも努め、認知症の正しい知識を持った職員育成に力を入れています。認知症介護には地域の方の力も重要と考え「認知症サポーター養成講座」を行い、地域で支えられるような取り組みも行っています。那覇市ボランティアポイント制度を活用し、地域の方がゆんたくや庭の清掃をして頂き開かれた事業所を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

庭付き一軒家という事業所の環境を生かし、利用者の希望を受け入れ猫を飼ったり庭の手入れを行ったり家庭的な雰囲気を大切にしている。地域の幼稚園との交流やボランティアの受入、認知症キャラバンメイトへの講師派遣などで地域との交流を図っている。利用者それぞれのペースに合わせて起床や食事、入浴が出来るようにしている。グループホームの新聞を作り事業所の様子を報告できると共に地域の情報を聞きながら手渡しをし、馴染みの関係となっている。利用者の健康管理には医療介護多職種との連携にICTを活用している。管理者と職員はチームとして利用者のケアができるようコミュニケーションを取り情報共有している。遠出の外出だけではなく個別で昔なじみの地域へ出掛けたり、週末に自宅へ帰ったり、利用者の外出したいとの希望に沿うよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入口の皆が見えやすい位置に掲示している。又、年間の勉強会の中に組み込むことで職員間での共有を図っている。	理念に基づき日頃から家庭的な雰囲気の中で利用者と関わっている。職員の出勤時に利用者から「おかえり」と声をかけられ「ただいま」と職員は答えている。利用者それぞれの出来ることや習慣に合わせて生活ができるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校、幼稚園等の運動会、敬老会行事への参加、近くのスーパーで日用品の購入を行うことで地域の中に溶け込んだ生活が行えている。	地域の幼稚園の園児が季節の行事で事業所を訪れ交流を行っている。ボランティアの方が草刈りに訪れたり、手工芸の作業を一緒に行い地域の方と交流している。グループホームの新聞を発行し事業所の様子を発信したり地域の情報を得るために手渡しで配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座への職員派遣や包括支援センターで行われている日常地域ケア会議への参加で認知症への理解について発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議にてサービスや活動内容の報告を行っており、ご家族様や有識者、市役所職員、包括支援センター職員に意見を求めケアやサービスの改善に努めている。	運営推進会議は2カ月に1回行っている。利用者の活動報告や実習生の受け入れ、研修について報告している。市町村や地域の方々から情報や事業所からの報告事項に対する意見を、今後の対応へつなげるように記録し活かしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	那覇市グループホーム連絡会や運営推進会議等を通じて取り組み等の報告や質問等を伝えている。	運営推進会議時に参加してもらい意見をもらったり、メールで市町村担当者と連絡をた取り合い、質問の回答をもらったり、ふれあいデイの受け入れなどのやりとりをおこなっている。那覇市のグループホーム連絡会にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自事業所の勉強会カリキュラムに組み込んでおり、職員に理解や共有を図っている。拘束等が必要ないようその都度話し合いを持ち、拘束をしないケアが行えるよう取り組んでいる。	法人として権利擁護、身体拘束をしないケアについての勉強会が年1回あり参加している。また、事業所内でも勉強会を行い職員全員が同じ意識で利用者に寄り添ったケアできるようにしている。利用者の安全を確保する際には拘束にあたらぬ方法で安全確保をする工夫をおこなっている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に社内研修で虐待防止について学ぶ機会を持ち、意識づけを行ない日々のケアについて適宜話し合いを行ない自身のケアについて振り返りを行っている。	カンファレンスで危険行動への対応策を検討し、利用者の尊厳を重視した対応を行うようにしている。職員は日常業務で「虐待につながるのではないか？」と気づいたことを管理者へ相談し改善している。また、職員全員が同じ意識をもってケアできるよう常に情報を共有している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて権利擁護について学ぶ機会を設けている。後見人制度を利用されている利用者様については後見人と定期的に連絡を取り合い連携を図っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際、ご家族様に分かりやすい説明や言葉選びを行ない十分にご理解が得られるよう努めている。又、気になることや心配事などいつでもご連絡頂けるよう伝えている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様来所の際やお電話で日々の様子を伝え要望等を言いやすい環境づくりに努めている。又、ミーティングに入居者様、御参加いただき意見を言える機会づくりを行っている。	利用者からは日頃の何気ない会話から意見を聞いている。家族からは面会時や運営推進会議に参加の際に意見や要望を聞くようにしている。家族と一緒に外出したいとの希望に沿うよう支援をしている。利用者家族から、おやつのお入れやクッションの作成などで支援に関わっている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや個別での面談で職員とのコミュニケーションを図る機会を設けており、意見等を吸い上げる環境作りに努めている。	管理者は定期的なミーティング以外でも職員の意見や相談にのるように努め、職員全員が同じ目線で仕事ができるようコミュニケーションをとっている。管理者を含め職員全員がチームとしてケアにあたることのできる環境づくりを行っている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員雇用制度やワークライフバランスを取り入れており、職員の資格取得の手助けや勤務形態の相談に応じ個々の能力が遺憾無く発揮できるような仕組みづくりを行っている。	職員個々の事情に合わせて勤務シフトを組み、急な休みにも対応し働きやすい環境となっている。研修への参加には勤務調整や研修費用の補助を行っている。管理者は職員と就業時間、労働条件等について人事評価の面談を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT、OOFJT等で職員の知識や技術の向上を目的とした機会を提供している。又、法人内で講師の登録制度を設け勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市のグループホーム連絡会への参加や相互研修等への職員の派遣を行い交流を図っている。又、事業所の見学の受け入れも行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様からの意見に真摯に耳を傾け、安心していただけるサービスの提供を目指した関係づくりを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との連絡を蜜に行いちょっとした事でも気軽に相談できる関係性の構築に努め、医療、介護の面で不安なことがすぐに解決できるよう橋渡しの役割も行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様への聞き取りや希望の確認を行いイメージを持ってサービスが利用できるような情報提供をし、選択を狭めないように支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物や皿洗い、掃除等の家事に関わらずご本人様が出来る範囲で役割を持っていただき共同生活の中で協力し合う関係性の構築ができるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にもチームの一員としてご本人のケアや外出、施設行事等に積極的に関わっていただき家族の時間を作れるよう努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の希望に添い海や図書館、馴染みの美容院への外出支援を行い趣味、嗜好を継続していけるプランづくりに努めている。	昔なじみの地域へ出掛けたり、同じ法人の他事業所と合同で動物園へ出掛ける、週末に自宅へ帰るなど利用者の外出を職員が支援している。馴染みの美容室まで通っていた方がいたり、旧盆に親族が仏壇置いている居室へ集まったりしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、又は職員が間に入り共同生活の場としての環境づくりに努めている。又、レクや行事等で共通の話題の提供を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状の悪化やその他の理由により退所してしまった方へ事業所での生活の様子や相談等へは必要に応じ情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の生活ペース似合わせご希望の時間での入浴や食事の提供、支援を行い、個々の希望に沿ったサポートができるよう心掛けている。	利用者の思いを把握するために日頃からご本人の言葉や生活リズムを把握するようにしている。一日のスケジュールは決まっているが事業所の都合ではなく利用者の希望する時間に起床したり、入浴ができる。食事の時間がずれ夜食が必要な方には提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様はもちろん、面会時にご家族様、ご友人等に生活歴の聞き取りを行い暮らしやすい環境を提供できるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や日誌、カンファレンス等で日々の生活リズムの把握に努めその都度必要なケアについて検討しご提供出来るよう心掛けている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各居室の担当職員を設け定期的なモニタリングやカンファレンスで現状に即した支援が行えるようなプラン作りや担当者会議においても各関係者に加え可能な場合はご本人様にも参加いただき介護計画に反映している。	3ヶ月に1回のカンファレンスを行っているが重度化の方は1ヶ月1回、利用者の状態に応じて介護計画の検討頻度をかえて対応している。日々の状態は介護記録に記入し、職員同士が情報共有ができるようにしている。訪問診療の利用者は利用者家族に医師から説明の機会がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録だけではなく、ICTを活用した医療との連携、情報の共有を行いご本人様の状態に即した支援が提供できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の対応や図書館への外出、ご自宅への宿泊等ご本人様、ご家族様から相談が合った際には、ご希望に添えるように支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市のボランティア制度を活用し歌会や傾聴ボランティアの受け入れを行っており、ボランティアの方々との交流を通じた新たな馴染みのある関係性の構築ができるよう支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望に添った医療機関への受診の支援や提携している医療機関へのICTを活用した情報の共有を図り安心した生活が営めるよう支援している	入居前からのかかりつけ医は家族対応で受診している。受診後は家族から口頭で聞き、職員全員で共有している。協力医により訪問診療は職員が対応し結果は家族へ職員から口頭で報告している。ICTの介護ソフトを活用し医療機関や薬剤師とも情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状態の変化について看護師との情報の共有を行い医療が必要な際には医師への情報提供を依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院の際には過去の病歴や最近の状態等の情報提供を行い適宜こちらから連絡し現状の把握や治療の内容について情報の共有を図っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様へは入居の際、事業所で可能な支援について情報提供を行っている。又、状態に変化があった際はその都度、ご家族様との話し合いの場を設けている。	入居前に重度化に向けた事業所の指針について説明し同意書をもらい状態変化時に家族や医療機関とも話し合い同意を得ている。月1回の勉強会のテーマでも看取りについて話し合いがもたれている。訪問診療や訪問看護と連携もとれ、今年の4月にも看取りを経験した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の研修にて消防所協力の元救急法の実践を行っている。又、看護師へ緊急時の対応について学んでいる。	/	/
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域のボランティアの方にご協力いただき避難訓練を実施している。日中、夜間と年2回シチュエーションを変えることで職員配置に関わらず避難が行えるよう実施している。	年2回、昼夜想定避難訓練を地域のボランティア方の協力も得て行っている。管理者から始まる緊急時電話連絡網の順番に電話をかける練習も行い、問題点を話し合い解決している。地震、火災、台風等の災害マニュアルも整備され、3日以上以上の備蓄も準備されている。	事業所前の道路が急坂で狭いため、地域のボランティア以外の近隣企業や学校等への協力を呼び掛け、協力体制を築くことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個々の性格、心身の状態に合わせた声かけや入浴の際には同性介助を基本とした配慮を行い尊厳やプライバシーに配慮した支援に努めている。	人生の先輩として尊厳をもった声掛けをしている。本人が呼んで欲しい呼び名を職員で共有している。基本的に部屋のドアを閉めたり、入浴や排泄介助時でもできる事は自分でやってもらうなど、プライバシーにも配慮したケアを心掛けている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな音楽や映画、希望の外出等気兼ねなく伝えられるような環境づくりに配慮し、日程調整やもしも希望されたことの実現が困難な場合は代案等伝えご希望に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの生活スタイルを把握し食事や入浴の時間を決めずご本人の希望に添った支援が随時提供できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際にはご本人にコーディネートを選んで頂いたり、希望があった際には美容室や服屋へ外出支援を行い今まで通りのオシャレが出来るよう努めている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を考える際、希望を聞いてメニューに取り入れたり、新聞や雑誌等の写真から食べたいと話されたものを職員と一緒に買い出しへ作ったりしている。	昼は法人からの配食を利用している。朝、夕は利用者のリクエストに応じたメニューを考え、職員と一緒に買い出しや野菜の下ごしらえを手伝っている。職員も同じものを一緒に食べ味の批評など話している。おやつは出来るだけ一緒に作って食べられるよう、ホットプレートを活用したり中庭で焼き芋を焼いたりしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の体重管理や状態把握から食事の形態や量、バランスを考え、食事や水分量が少ない時には好きな物や食べやすさに配慮しご本人様の無理のない範囲で摂取して頂けるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様に合わせ口腔ケアシートやマウスウォッシュなどを活用し入れ歯の方は夜間帯は事業所でお預かりし消毒する事で口腔内の衛生が保たれるよう努めている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄パターンを記録等から収集、把握を行い、日中は布下着を活用したり適宜の誘導で失敗を減らせるよう努めている。又、トイレまでの距離が間に合わない方へはポータブルトイレを活用している。	日中はほとんどの方がトイレで排泄できるように意思の表出が無い方でも表情や排泄パターンを把握し、声掛けし排泄支援している。夜間は安眠を優先し、オムツやパット、ポータブルトイレなどで対応している方や、トイレ排泄される方など、個々に応じた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の際に乳製品を提供したり、日頃から食事のメニューに食物繊維の多い食品を取り入れ便秘予防に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご家族様から希望の合った方には毎日の入浴を提供したり、夜間帯でも入浴を希望される方にはご希望に添えるように努めている。	基本的に2日に1回と入浴時間は決まっていますが、希望があればいつでも入れるよう支援している。入浴拒否の方には声掛けや、時間をずらしてみたり、別の職員が対応する等工夫している。普通の住宅と同じサイズのお風呂場や脱衣所なので自宅にいるような雰囲気の中で入浴や整容が出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活スタイルに合わせた就寝介助や傾眠見られる方にはソファや居室で休んで頂けるよう配慮している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や訪問薬剤師とICTを活用した連携を取っており、状態変化や服薬について随時連絡を図っており服薬に関する研修を年間のカリキュラムに取り入れている。	受診時に主治医と薬剤師が情報共有ソフトで連携し、事業所でも処方箋ファイルで確認できるようにしたり、薬の変更時に申し送りで職員全員で共有している。服薬管理マニュアルも作成され、投薬時にはダブルチェックを行っている。法人で薬剤師による服薬研修を年に1回行っている。服薬トラブル時の対応についての文書化に期待する。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の好きな音楽や映画の鑑賞で気分転換を図ったり、役割を持った生活が出来よう家事やおやつ作りに参加していただきご本人の能力に合わせた活動が出来よう支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせた外出行事やご本人様が希望された際は個別での外出支援、日常的な買い出しへの同行を行っている。又、ご家族様の協力で週末ご自宅へ帰宅し過ごせるよう支援している。	日常的な買い物時に職員と一緒に出掛けたり、体調に合わせて遠出の外出を毎月計画している。てんぶすや美術館、博物館に出かけた帰りにおやつを食べたりしている。家族の協力を得て、自宅に帰ったり、外食したり家族との時間を大切にできるよ支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様での管理が難し方は事業所や社協の金銭管理事業や後見人が管理しご希望時には一緒に買い物へ出掛け今まで通りの生活が出来るよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者様から電話仕様のご希望があった際にはいつでも掛けられる環境作りを心掛けている。又ご自身では難しい方には定期的に職員が様子をご家族様へお伝えしたり手紙や年賀状を送っている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングやテーブルに季節に合わせて折り紙や飾りを入居者様と飾ったり、お香を焚いて香りを楽しんだり、リラックスしていただけるような環境作りに努めている。	住宅を改装して作られた事業所は広さはないがリビングは対面キッチンで食卓テーブルやソファが並び、家庭的な雰囲気の中、好きな場所でくつろいでる。中庭で近所の猫に餌を与えることを日課している方や、焼き芋を焼いたりしている。ソファでくつろぎテレビを見たり洗濯ものをたたんだり中庭を眺めながらゆったりするなど、それぞれの居心地の良い場所でくつろいでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居様が思い思いに過ごして頂けるよう一人掛けや二人掛けソファを配置したり、仲の良い入居者様同士で食事を楽しんで頂けるよう食堂の座席配置を工夫している。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真や仏壇、衣装ケースなどご本人様の愛着のある物を持ってきていただいております。ご自身が過ごしやすい環境作りが出来るよう支援している。	居室の大きさや向きも、それぞれ違いがあり家具の配置もその人の動線に合わせ模様替えなど行っている。仏壇の置かれた居室には家族や親せきが命日やお盆などに集まることもある。2階のベランダでは自分の洗濯物を手洗いし干す方やチラシの切り抜きなどを収集し居室に飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線が確保出来る環境整備や廊下に椅子を配置しいつでも休めるよう工夫したり、ご自身の居室が分からなくなってしまう方は入口に名前を記入した紙を貼り迷わないよう支援している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	15	地域のボランティア以外の近隣企業や学校等との協力体制の整備が不十分。	地域の企業、学校との協力体制の構築。	地域での行事や運営推進会議への参加を促し関わりを持つことで関係性の構築を行い、近隣の企業や学校等との協力体制を作る。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。